

保育所の役割・機能及び今日的意義の考え方

【保育所の役割・機能】

◎子どもにとっての機能

1日の生活をベースに養護と教育が発達過程に応じて一体的に発揮

①養護：健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を提供

- ・食事、排泄、休息、衣服の調節、生活習慣等
- ・情緒の安定

②教育：生涯にわたる生きる力の基礎を育てる

- ・基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う
- ・自主、協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う
- ・自然等の興味や関心を育て、豊かな心情や思考力の基礎を培う
- ・言葉への興味や関心を育て、豊かな言葉を培う
- ・様々な体験を通して、豊かな感性を育て創造性の芽生えを培う

◎保護者にとっての機能

③入所児童の保護者

への支援

- 1) 保護者との協同による「子育て力」向上の支援
(育児や親子関係に関する相談・助言、情報提供等)
- 2) 就労支援(延長保育などの特別保育の実施)

④地域の在宅子育て家庭

への支援

- 保育所の持つ特性を活かした在宅保護者等への支援
- ・場の提供(一時保育、親子の交流、保育体験)
 - ・専門性の活用(育児や親子関係に関する相談・助言、情報提供等)

【保育所の今日的意義】

☆社会的環境の変化に伴う課題

- ・子どもの生活環境の変化(直接体験、人との関わりの不足、生活リズムの乱れ、子どもにとって満足できる居場所の不足)
- ・保護者の子育て環境の変化(抱え込み・孤立化、子育ての知識不足、喜びがわからない)
- ・親子の関係性の変化(母子密着化の進行、期待の肥大化、過度の干渉・厳格化、愛着形成の不足)
- ・保護者の就労環境の変化(保護者の仕事と子育ての両立を支える環境が不可欠)
- ・虐待問題、母子家庭の増加など福祉ニーズの高まり

○課題を解決するために保育所の持つ機能が不可欠

- ・養護と教育の一体的な提供(子どもの健全な発達)
- ・家庭との協同による子育て(喜び発見、子育ての知識の獲得、孤立化の予防、仕事と子育ての両立の実現)

☆保育所(保育者)の直面する課題

○子育て支援に関する様々なニーズに対応した取組

保育所の機能の拡充の反面、

- ①現場の多忙化、職員の資質(知識・技術・倫理)向上の機会が不足
- ②保育指導、地域の子育て支援の機能のばらつき
- ③地域の他の専門機関等との連携が不十分

○方向性：子育ての専門機関としての機能の改善、実質化

- ①保育士等の専門性向上の強化(研修、評価の充実)
- ②地域の人材、資源の有効活用、関係機関との連携
- ③地域の子育て支援の機能の整理
- ④園長のリーダーシップ、組織体制の充実

☆保育所の持つ特質

- ①保育や子育ての専門性を有する保育所スタッフが存在
- ②0歳から6歳までの就学前の子ども集団を見ることが出来る
- ③様々な遊びや安定した生活ができる環境(園庭、調理室、保育室等)が存在
- ④保護者同士の交流の機会がある